

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.17

よく忘れ物をしてしまう子供の 理解と支援



よく忘れ物をしてしまう子供の理解と支援

忘れ物をしてしまう子供たちの多くは、実は忘れ物をして困った状況になるまで忘れてきたことに気付いておらず、その時になって毎回後悔したり、悩んだりしているかもしれません。そうした経験から、自己肯定感が低下してしまうことも考えられます。

子供が忘れ物をしてしまう背景にはさまざまな要因があることを理解しましょう。その上で、解決策を子供と一緒に考えることが大切です。

最終的には、子供自身が忘れ物を減らすための対処法を身に付け、うまくできた経験を蓄積できるようにしていきましょう。「こうすれば、うまくできる」といった自信をつけることも大切になります。

- ◆忘れ物をしたくてする子供はいないことを理解しましょう。
- ◆子供と一緒に考えて、忘れ物を減らす方法を一緒に発見しましょう。
- ◆うまくできたことを一緒に喜びましょう。

よく忘れ物をしてしまう子供はいませんか？

先生のクラスには、よく忘れ物をしてしまい、困っている子供はいませんか？

このようなお子さんは、忘れ物が原因で学校や家庭で叱責されることが多かったり、自身を責めたりすることが多くみられます。

忘れてしまうことに対して、その子自身も困っているという視点に立つことが大切になります。






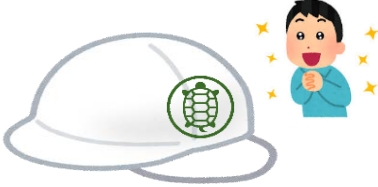
どうして忘れたのか、その要因について考えてみましょう。

忘れ物が多く、日々の活動でも忘れっぽい場合には、興味のある物とない物とで違いがあるのか、日常的に行うこととそうでないこととで注意の持続に偏りがあるのか等、その子の様子（実態）を把握する必要があります。

その上で、例えば子どもに合ったメモの取り方を学ばせます。また、忘れやすい物を所定の場所に入れることを指導・支援する等、家庭と連携しながら決まりごとを理解させ、その決まりごとを徹底することにより、定着を図ることも大切です。

下の表は、予想される要因と解決策の例です。

どうしたら忘れ物を減らすことができるかを子供と一緒に考えることが大切です。

| 予想される要因 | 解決策の例 |
|--|--|
| <p>指示などを<u>一時的に記憶にとどめておく力が弱い</u></p>  | <ul style="list-style-type: none">・複数の指示を出すときには、一度にたくさんを伝えるのではなく、小分けにして提示し、1つ目が終わったら次の指示を出すようにしましょう。<u>課題や指示は「一度に1つ」</u>を心掛けましょう。・<u>連絡帳やメモ帳に書く習慣</u>を身に付けさせましょう。書くことに時間がかかる子供には、<u>記入しやすいフォーマットを活用</u>してみましょう。 |
| <p><u>確認することを忘れてしまう</u></p>  | <ul style="list-style-type: none">・下校前や登校前に、持ち帰る物や持っていくものを<u>先生や保護者と一緒に確認</u>することで、<u>習慣化</u>できるようにしましょう。・<u>持ち物確認シート</u>を作り、視覚的にチェックすることができる工夫も有効です。 |
| <p><u>物の整理整頓が苦手</u>で、必要な物や提出物が見つけられずに忘れてしまう。</p>  | <ul style="list-style-type: none">・<u>所定の位置</u>を一緒に考えたり、<u>お助け収納BOX</u>を設置して大まかにでも管理ができるようにしたりすることで、細かい作業（整理）を必要としない物の管理の仕方を検討してみましょう。・必要な物とそうではない物の分別が難しい場合は、子供と一緒に考えながら、<u>物を減らす取組</u>も大切になります。 |
| <p><u>自分の持ち物という認識が弱く</u>、物に対して意識を向けにくい。</p>  | <ul style="list-style-type: none">・<u>配布物や自身の持ち物にその子なりのマークや印を付ける</u>ことで、物への意識を向けやすくしてみましょう。・持ち物の色や形、素材等をそろえて統一感を図り、<u>自分の物が一目でわかりやすくなる工夫</u>を考えてみましょう。 |

このような取組の結果、忘れ物が減ったり持ち物をきちんと準備することができたりしたときには、「できたね。」等と子供をしっかりとほめてあげましょう。

子供は、ほめられる経験を積み重ねていくことで、「できた」という思い（自己肯定感）を育むことができます。その結果、日々の活動や生活に意欲的になり、自身の持ち物や提出物に対して意識を向けられるようになることで、さらに忘れ物を減らすことにも繋がります。

☆さらなる理解のために☆

うまくできたことを評価して、自己肯定感を育む指導を！

子供に必要な持ち物等を伝えるとき次のような工夫や支援を行うことも検討しましょう。

○クラス全体へ伝えるときの工夫

- 必要な持ち物等の連絡は簡潔にし、口頭の連絡と合わせて、具体物の提示も行います。
- 一定の場所に必要な持ち物等を板書し、視覚情報をわかりやすく提示します。
- 子供たちが必要な持ち物等を十分に書き写せる時間を設定します。



○個別に支援するときの工夫

- 板書を書き写すことが困難な子供には、必要に応じて手元に板書を写したメモを用意し、子供に書いてもらいます。(タブレットで板書を写す方法もあります)
- 学校から持ち帰るもの(週末の給食着、うわばきなど)はランドセルの内側にメモを貼ります。

その子なりの方法を一緒に発見し、そしてうまくできたことを一緒に喜びましょう。

<参考資料・文献>

[○クラスでできる支援ヒント集～通常の学級での配慮のある指導を目指して～\(山形県教育庁義務教育課\)\(平成19年3月\)](#)

特別な教育的ニーズに応じた教育を推進するために、通常の学級での配慮ある指導が不可欠です。その時に参考にする資料として作成されたものです。担当している子供の姿の一覧から必要なページを探して読んでもらえるよう、まとめています。



[○注意欠如多動性障害\(ADHD\)のある子供の指導・支援 忘れ物を減らすための指導・支援\(国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センターホームページ\)](#)

発達障害のある子どもの理解や指導・支援等に関する基本的な情報を提供しています。その中で、注意欠如多動性障害(ADHD)のある子供の指導・支援の中に忘れ物を減らすための指導・支援について掲載されています。



[○発達障害のある子のケース別サポート事例辞典\(監修:上野一彦、著:月森久江 ナツメ社\)\(平成30年5月\)](#)

学校生活で困っている子供が抱えている困難の背景や原因、すぐにできる対応法、その子どもとクラス全体の両方をサポートするための指導のヒントなどを場面別にわかりやすく紹介しています。

